

平成27年度第6回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」・  
「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成28年3月15日（火）午後6時35分～7時55分  
会場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

次 第

- 1 開会
- 2 議題

議 題	資料
1 平成28年度実施予定のニーズ調査の質問項目について	資料1～4
2 幼稚園・保育園による「子ども主体の協同的学びプロジェクト」合同発表会の結果報告について	資料5～7
3 平成28年度の会議スケジュールについて	資料8
4 その他 ・平成27年度第1回評価指標検証ワーキンググループについて ・認可保育所設置・運営事業者募集について	資料9 資料10

- 3 その他

- 4 次回開催予定

日 時：未定

会 場：未定

主な議題：平成28年度におけるニーズ調査の実施について（実施時期・対象・調査内容等）

- 5 閉会

配布資料

資料1	ニーズ調査の設問一覧
資料2	ニーズ調査票【就学前のお子さんの保護者の方用】
資料3	ニーズ調査票【小学生のお子さんの保護者の方用】
資料4	ニーズ調査票【成人前調査用】
資料5	幼稚園・保育園による「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会配布資料
資料6	幼稚園・保育園による「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会結果報告
資料7	幼稚園・保育園による「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会アンケート集計結果
資料8	平成28年度墨田区子ども・子育て会議等スケジュール（案）
資料9	平成27年度第1回「評価指標検証ワーキンググループ」議事要旨
資料10	認可保育所設置・運営事業者募集要項【平成28年度・平成29年度施設整備費補助金交付対象事業】

出席者(敬称略)

委員

大豆生田 啓友(玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授)  
野原 健治(興望館館長)  
高嶋 景子(田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授)  
長田 朋久(横川さくら保育園長)  
西島 由美(にしじま小児科院長)  
伊丹 桂(文花子育てひろば施設長)  
押田 剛(主任児童委員)  
相澤 しのぶ(立花吾孀の森小学校 PTA 会長)  
新木 真理子(ひまわり保育園施設長)  
賀川 祐二(NPO 法人 病児保育を作る会代表理事)  
貞松 成(株式会社 global bridge 代表取締役)  
熱田 美帆(公募)  
佐藤 摩耶子(公募)  
関 舞衣子(公募)  
陳 晨(公募)  
近藤 ゆき江(八広幼稚園長)  
田谷 至克(寺島中学校長)  
青塚 史子(八広保育園長)

< 欠席委員 >

杉浦 浄澄(江東学園幼稚園副園長)  
服部 榮(社会福祉法人 雲柱社理事長)  
佐瀬 一夫(中学校 PTA 連合会会長)  
内田 淳(青少年委員協議会委員)  
森 八一(青少年育成委員会連絡協議会副会長)  
小菅 崇行(小菅株式会社代表取締役会長)  
中村 信幸(連合墨田地区協議会会長)  
本多 美絵子(両国幼稚園副園長)  
木村 律子(公募)  
小林 佳香(公募)  
荘司 美幸(公募)  
保坂 登(緑小学校長)

< 傍聴 >

4 名(男性 4 名)

部課長出席者

石井 秀和(子ども・子育て支援担当部長)、小倉 孝弘(子育て支援課長)、杉崎和洋(子ども課長)、  
村田 里美(子育て支援総合センター館長)

事務局出席者

浦辺・田村・遠藤・戸村・正岡・酒井・小川・高梨

## 1 開会

事務局	<p>これより開催する。</p> <p>委員の出席状況について、現時点で 30 名の内、過半数以上が出席しており、定足数を満たしているため、会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。</p> <p>また、前回の平成 27 年度第 5 回の会議記録を委員に配布し、特段、修正等の意見がなかったため、議事録として確定している。</p> <p>2 月 19 日に評価指標検証ワーキンググループ(以下、WG)、2 月 29 日に「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会を行った。また、3 月 3 日に企画会を行い、本日の会議の事前調整を行った。</p>
-----	---

## 2 議題

### (1)平成 28 年度実施予定のニーズ調査の質問項目について

事務局 (地域研)	(資料 1～4 について説明)
委員	計画では 5 つの基本目標を設定している。就学前調査の問 39 において、基本目標の具体的な方向性について聞くような設問に修正した方が良い。
事務局	修正した上で、次回の会議で提案したい。
委員	資料 1 において、乳幼児調査の前問 54 と問 55 に「5 歳以上」とあるが、あまり意味がないのではないかと。調査票では「5 歳以上」ではなく「すべての方」となっている。また、設問内容として「過ごさせた場所」とあるが、「過ごさせたい場所」ではないかと。小学生調査の前問 23 にも「5 歳以上」とあるが、誤りではないかと。
事務局 (地域研)	<p>乳幼児調査の前問 54 と問 55 は「過ごさせたい場所」となる。また、小学生調査の前問 23 の「5 歳以上」は削除となる。</p> <p>乳幼児調査の前問 54 と問 55 は、学童クラブについて聞いているが、国のひな形では 5 歳以上のみへの質問となっている。ただし、他自治体では 5 歳以上の制限は設けずに質問している例もある。</p>
委員	すべての人に聞いて、クロス集計によって 5 歳だけの数値を出すことができるのか。
事務局 (地域研)	可能である。
委員	ならば、すべての方に聞いて良いだろう。
事務局	なお、前回調査においては、5 歳以上のみではなく、すべての方へ聞いている。
委員	成人前調査の前問 31 の「将来就きたい仕事」と前問 46 の「先生や学校への要望」は、前回調査でも聞いている設問が、資料では新規追加の設問となっている。これは何か意図があるのか。

事務局 (地域研)	両方とも誤りであるため、適切な内容に修正する。
委員	成人前調査の問 10 の選択肢で「墨田区に長く暮らしているから」と「生まれ育ったまちだから」が同じような内容ではないか。 また、成人前調査の問 11 の選択肢で「自立したいから」は、住みたくない理由としてはどうかと思う。
事務局 (地域研)	成人前調査の問 10 の選択肢において、「生まれ育ったまちだから」は生まれてからずっと墨田区で暮らしている方で、「墨田区に長く暮らしているから」は墨田区外で生まれ、途中から墨田区に暮らしている方を想定している。 問 11 の「自立したいから」の選択肢は、積極的な理由として、親から自立するためということ想定している。
委員	少し分かりにくいかと思う。
委員	成人前調査の項目が少なすぎる。例えば、前回調査で聞いている携帯電話の設問は残し、継続して調査することはできないか。
会長	今回の案では、今回の調査の趣旨に沿って必要な部分のみとしているが、実際に少なくなっている。趣旨や聞くべき内容との兼ね合いもあり、検討していく必要はある。
委員	成人前調査の朝ごはんの設問で、食べているかどうかを聞くだけで終わるのは意味がない。全体的に何が聞きたいのか、食べない理由を聞かなければならないのではないか。その後の夕ごはんも同様で、何を聞こうとしているのか考えた方が良い。 また、成人前調査の問 11 の選択肢も、「親から自立したいから」というような形にすれば、分かりやすくなる。丸を付けるだけの回答だけで、該当しそうな選択肢を設けるならば、ある程度、質問数が多くても回答が得られるだろう。
会長	もう少し深く聞くこともアプローチのひとつである。
事務局	朝ごはんを食べない理由や携帯電話について、復活する形で検討し、次回の会議の案に反映させたい。
会長	次回も継続するが、意見があれば事務局まで出していただきたい。
事務局	今回の案はたたき台として示したため、意見をいただければと思う。また、成人前調査の前問 の 32、33、35、36 の内容は復活させる形が良いと考えている。
会長	委員からの意見と、事務局での検討で、次回の会議で再度、案を示してもらおう。
委員	乳幼児調査の対象の 2,000 人は無作為抽出であるが、年齢の配分は均一になるように考慮しているのか。
事務局	住民基本台帳より、地域と年齢をバランスよく抽出している。

## (2) 幼稚園・保育園による「子ども主体の協同的学びプロジェクト」合同発表会の結果報告について

委員	(資料 2～4 について説明)
委員	その先に上がる学校につながっていくことが大事のため、小学校や中学校の先生に参加いただきたいし、委員になっていただいても良いと思う。
委員	公開保育に参加して、先生や保護者、子どもたちが、子どもを主体として学んでいっていると感じ、有意義なプロジェクトと感じた。園も情報発信しており、保護者からも好評

	で、次年度以降も継続して多くの園で行っていただきたい。
委員	先生が先取りせずに、子どもが主体となる行動を待つことで、良い学びになったという声が園からあった。発表会も良い雰囲気だった。あのような学びの場をどう重ねていくか、どう輪を広げていくかが大事で、今後も実績を重ねていただきたい。
委員	公立と私立が一緒に考え合う初めての取り組みで、多くの園の先生たちに会って協議できたことが有意義だった。また、アドバイザーの先生から学べたのも有益だった。他の園も「やりましょう」と話が出ている。 後半のシンポジウムは時間が短く、もう少し聞きたかった。2時間の使い方を来年度は検討していただきたい。
会長	時間は会議等で検討いただきたい。当日は他の自治体の方もおり、自治体職員の上層部が複数人で参加していたり、同様の取り組みができないか、自分の自治体へ問い合わせたりする参加者もいた。
委員	プロジェクトは今後も継続していただきたい。また、周りの母親たちには行ってみたいとする人が多くいたが、働いている母親にとって平日の夕方は参加しにくく、取り組みが浸透しきれないと思う。可能な限り、参加しやすい時間帯を検討いただきたい。 また、アンケートでの意見において、基幹園や民営化への意見が多くあると感じているが、メリットとデメリットを周知する努力は必要だろうし、検討材料に役立てていただきたい。
会長	保護者の方にも聞いていただきたいと考えており、次年度に検討いただけるだろう。民営化等への意見について、当日に言って来る参加者もいたが、正式なルートで意見を上げることをアドバイスした。

### (3)平成28年度の会議スケジュールについて

事務局	(資料8について説明)
会長	WGと専門部会の位置づけはどうなるのか。
事務局	これまで、専門部会はWGでの検討以上に詳細な検討を要する際、一部、専門家を入れて検討した実績があり、時期や検討内容はその時々で決まってくる。

### (4)その他

#### (a)平成27年度第1回評価指標検証ワーキンググループについて

委員	(資料9について説明) 匿名性の高い座談会を行えば、本音などがたくさん出てくるのではないかと。
事務局	区へ直接、意見を申し出る方もいる。定員拡大には全力で取り組む。
委員	直接言える方の意見だけでなく、泣き寝入りしている方の意見も伺いたいと思っている。
会長	その辺を含めて議論いただき、案を出していただきたい。

#### (b)認可保育所設置・運営事業者募集について

事務局	(資料10について説明)
-----	--------------

委員	4 ページにある「特別保育事業等」は必ず行わなければならないのか。
事務局	延長保育については、前回、必ず 2 時間以上としていたが、長時間保育が必ずしも好ましくないとの法人もあり、「原則」として柔軟に対応するものである。
委員	給食について、食中毒の懸念もあり、セントラルキッチン方式では行えないのか。
事務局	自園調理が基本であり、セントラルキッチン方式は認めていない。
委員	提出書類はたくさんあるが、紙で 15 部の提出を CD 等の電子データで提出するなど、検討いただけないか。
事務局	検討課題としたい。
会長	他自治体での良い事例があれば、事務局へ教えていただきたい。

### 3 その他

委員	1 月に第二子を出産し、今後も親の立場で会議に参加し、意見を出していきたい。
委員	子ども主体の共同的学びプロジェクトは、次年度も継続するのか。その場合、アドバイザーの先生への依頼などがあるが、区が方針を定めた上で、4 月に集まって方向性を決めて行くなど、筋道を教えてほしい。
事務局	早急に対応し、相談の上、進めていきたい。
会長	実施する園からすれば、新年度が始まる前に分かることができれば良い。可能ならば、会議を経ずとも 3 月中に方向性を出して、長田委員をはじめとした委員で進めていただきたい。園にも投げかけていただきたい。
事務局	合同発表会の時間の都合から、実施する園が多すぎるのもいかがかと思うが、良い機会でもあり、多くの園で実施していただけるというのはありがたい。そこも相談させていただきたい。
会長	実施する園は多い方が良いが、時間等のこともあり、合同発表会の進め方には工夫があっても良い。事務局や専門部会での検討をお願いしたい。

### 4 次回開催予定

事務局	次回の 4 月の会議日程は決まっていないため、決まり次第、連絡する。 なお、5 月の会議は 5 月 24 日を予定している。
会長	以上で、閉会とする。

以上